

令和7年度 東三鷹学園 三鷹市立第一小学校 学園・学校評価報告書

標記の件について、下記のとおりご報告いたします。

記

学園評価 ※学園内で統一記述					学校評価 ※学校ごとに記述							
※今年度、明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とする重点課題					※来年度の重点課題を解決するための改善方策							
<p>・今年度改訂した東三鷹夢・未来デザインシート（キャリア・パスポート）の内容や実施方法等について、児童・生徒や保護者、地域の方々に理解を得るように周知をする必要がある。</p> <p>・多様な児童・生徒が安全安心して学校生活を送ることができるよう、一層支援の充実を図っていく必要がある。</p> <p>・防災の取組を、町会等と連携して充実させる必要がある。</p>					<p>・保護者会で保護者に変更について周知するとともに、児童・生徒にも説明する。また、次年度初めに活用の仕方について丁寧に説明をして始める。夏季休業中に児童・生徒及び教員や保護者と、よりよい活用について熟識を行う。</p> <p>・目的や目標を共通理解して取り組む。また、サポート隊や未来塾と連携して、学習習慣や基礎学力の定着を図る。</p> <p>・学園単位で町会と連携して防災組織を立ち上げ、必要な防災訓練や防災教育を検討する。</p>							
※今年度、明らかになった課題（学校関係者評価を経て記述）					※来年度の改善方策（学校関係者評価を経て記述）							
<p>・教員のライフ・ワークバランスを推進し、学校での滞在時間の縮減を図り、働き方改革を推進する。</p> <p>・若手教員の学習指導力及び生活指導力向上を図る。</p> <p>・東三鷹夢・未来デザインシートへの改訂の目的を児童や保護者に周知し、効果的な活用の仕方を工夫する必要がある。</p>					<p>・校内だけで可能なものについて、行事や会議等の削減を一層進めるとともに、トラブルが即日解決できるような仕組みを作る。</p> <p>・来年度は学園研究発表会はなくなるが、引き続き今年度効果のあったOJTや校内研究を継続する。</p> <p>・年度当初に児童や保護者に丁寧に説明して児童がなりたい自分になるために目標を立てて取り組むための支援や給食指導を学校や保護者、地域と連携して行う。</p>							
取組項目	今年度の重点目標	成果	課題	改善策	取組項目	学校の経営目標（中期目標）	今年度の重点目標（単年度目標）	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	自己評価			学校関係者評価
									取組	成果	所見	
「人間力」「社会力」の育成	コミュニティ・スクールの運営・スクールの推進	1. 東三鷹学園スタンダード（キャリアパスポート）の充実 2. 地域学校協働本部及びCS委員会についての理解促進 3. スクール・コミュニティの創造に係る取組の充実	取組1：キャリア・パスポートの内容を加えた「東三鷹 夢・未来デザインシート」を作成した。 取組2：CSカレンダー作成、漢字検定や英語検定、サポート隊等の実働部隊として活動を始めた。また、学園・学校評価等についての熟識に参加していただいた。 取組3：一小が民営化して、学校や地域子どもクラブと連携しながら運営を始めた。また、一小、北野小共に長期休業中の実施も行った。	取組1：改訂した内容や実施方法等について、児童・生徒や保護者、地域の方々に理解を得るように周知をする必要がある。 取組2：さらに活動が活性化していく必要がある。 取組3：さらに充実した児童の放課後の居場所づくりと充実した活動ができるようにしていく必要がある。	取組1：今年度末の保護者会に保護者に変更について周知するとともに、児童・生徒にも説明する。また、次年度初めに活用の仕方について丁寧に説明をして始める。夏季休業中に児童・生徒及びCS委員会よって、よりよい活用について熟識を行う。 取組2：活動内容の充実に向けて、会員をさらに増やすとともに、活動内容を広げていく。 取組3：各校のニーズと実態を踏まえて、関係機関と連携して、持続可能な活動内容や方法を検討して実施していく。	CS委員会と協働して教育活動を充実を図るとともに、学校3部制へ円滑な移行を図る。	サポート隊、地域人財を活用して学習の充実を図る。	各学年・学級でサポート隊を活用した授業を効果的に実施する。	3	4	2学期末の取組状況については、学年のばらつきはあるものの教員の33.3%が5回以上、20%が4回以上、33.3%が3回以上サポート隊等を活用しているため、継続して日常の学習活動での支援を活発にしていこう。成果については、88.8%の児童がサポート隊等の地域の人材からの支援に感謝し、満足している状況にある。今後も引き続き、支援を求め学習の充実を図っていく。	妥当である。地域の力を存分に使っていただきたい。
	小・中一貫教育の推進	1. 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 2. 相互乗り入れ授業の充実 3. 児童・生徒の交流活動の充実	取組1：学園共通の取組として、話し合い活動の充実と基礎学力の定着を目指した研究を行い、研究発表を行った。 取組2：各校の学習予定等を確認してteamsで連絡を取り合い、効果的に乗り入れを行うことができた。 取組3：ふれあい体験やデジタルシナジズンシップ熟識、東三鷹祭等の小中交流や小中交流等、計画的に準備、実施をすることができた。	取組1：研究内容のさらなる充実を図る必要がある。 取組2：乗り入れに適した学年に教員が入ることができるよう、あらかじめ小中学校で時間割を調整しておく必要がある。 取組3：児童・生徒や教職員が無理なく取り組むことができて、保護者や地域のニーズを踏まえた内容や方法で交流を充実させていく必要がある。	取組1：次年度も引き続き学園で共通して取り組む内容と各校で取り組む内容をあわせて研究に取り組んでいく。 取組2：今年度うちに、乗り入れに入る曜日と時間を小中学校で打合せを行ってから時間割作成に取り組む。 取組3：東三鷹祭については、地域のニーズを確認しながら内容や方法を検討していく。また、小中交流については、学年の発達段階に応じて関係交流を含めて全学年で交流を行う。	小・中一貫校「東三鷹学園」の教育活動の質的向上を図る。	東三鷹学園版カリキュラムを活用して、授業力向上を図る。 小中の様々な交流活動や地域と一緒に活動を通して、人間関係を深める。	各学級、教科で学園・学校の研究テーマに沿った授業実践を行う。 地域人財や専門家を活用した出前授業や体験授業を実施する。	3	4	2学期末の取組状況については、教員の90%が3回以上研究テーマに沿った教育実践を進めることができてきている。特に5回以上実践している教員が53.3%と半分以上を占めており、研究テーマに合わせて各自工夫を重ねて授業を行っている。成果については、93.3%の教員が手応えを実感しているため、研究成果を活かし引き続き授業を充実させていく。	妥当である。小中の様々な交流活動や地域と一緒に活動も多く行っているため、人間関係も深まっている。
「人間力」「社会力」の育成	知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	1. 基礎学力の向上 2. 教員の指導力の向上 3. 自主学習の充実 4. みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等	取組1：各級でAIドリル等を授業の導入時や家庭学習等に活用した。また、JMコンテンツに向けて既習学習の復習に取り組んだ。 取組2：学園研究と関連させて、各校で話し合い活動の方法や内容を充実させた。 取組3：小学校においては家庭学習として自主学習を計画的に行った。中学校においては、みたか地域未来塾と連携して主体的に生徒が参加できるようにした。 取組4：サポート隊事務局と連携して、サポートに入っていたら機会を増やした。	取組1：長期休業中についても継続的に補充学習を行う工夫をする必要がある。 取組2：各種学力調査の分析を踏まえて計画的な指導を行う必要がある。 取組3：さらに多くの児童・生徒が自主学習に取り組む工夫をする必要がある。 取組4：多様な児童・生徒が安全安心して学習に取り組むことができるようにする。	取組1：夏季休業中等の計画的な宿題や補充学習の機会を一層充実させる。 取組2：学力調査を踏まえた授業改善を行うとともに、学力定着に向けて計画的に復習も行う。 取組3：小学校においては、自主学習の取組内容の紹介や、習慣化に向けた啓発を行う。 取組4：中学校においては、未来塾と連携して自主的に生徒が参加する機会を増やす。	児童が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、基礎学力の定着を図る。 教員の授業力の向上を図る。	学園研究や校内研究等を活用して、授業力向上を図る。	学園研究や校内研究、各種研究会やOJT、若手研修等の授業研究、協議会を通して、授業力向上を図る。 学力向上のための推進プラン、OJT研修、学年会を活用して、主に若手教員の指導力向上を図る。	3	4	2学期末の取組状況については、教員の45.4%が3回以上、授業を公開し、授業力の向上を図ってきた。更に、三鷹市教育委員会の教育アドバイザーや校内研究講師等による支援を受けながら授業力の向上を図っていく。成果については96.6%の教員が実践について評価しているため、引き続き、授業アンケートの結果を活かすなど授業改善に努めていく。	妥当である。学園研、校内研を通して、授業力の向上は図られた。その他、日常的な取り組みも行われている。学習指導だけではなく、給食指導についてなど幅広く行われており、OJTグループで互いに研鑽しあっている。また、学年中での教科担任制も進めている。
	知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	1. 人権と言葉を大切にしたい指導の推進 2. デジタル・シティズンシップ教育の推進 3. 教育支援の充実	取組1：2学期には、学園合同の挨拶運動を行い、児童・生徒及び保護者やCS委員、民生児童委員にも声掛けして行った。 取組2：事前に各学級で活用方法について話し合い、12月に保護者も交えて熟識を行った。 取組3：けやき教室教員と各学級担任、専科教員、SCや関係機関と連携して、障害に応じた支援や指導、啓発を行った。	取組1：日常化するよう、継続的に取り組む必要がある。 取組2：児童・生徒が自ら活用の仕方を保護者とともに共通理解して効果的に活用できるようにする。 取組3：不登校児童・生徒への一層の支援の充実を図っていく必要がある。	取組1：学園及び各校で継続的な声掛けをするとともに、保護者や地域の方々にも一層働き掛け、協働して取り組んでいく。 取組2：児童・生徒が自ら考え、学園共通の使い方のきまり等をつくる等、デジタルの賢い利用者を育成する。	規範意識を高めるとともに、おもいやりのある児童を育てる。	挨拶や人権に関すること、主体的によりよい生活をしようとする姿勢を育てるとともに、児童が相互に人権を大切にできる学級・学校を目指す。	挨拶や人権に関すること、主体的によりよい生活をしようとする取組を年間3回以上実施する。また、いじめ調査やQ-U調査を分析し、各学級で具体的な取組を実施する。	4	4	2学期末の取組状況については、93.4%の学級があいさつや人権を大切にしたい取組を実践してきているため、継続して日常的に取り組ませていく。成果については、97%の児童があいさつや人権を大切にしようとするなどよりよい生活をしようとしているため、引き続き、すべての児童及び教員が意識して取り組めるよう働きかけを徹底していく。	挨拶は家庭の問題が大きい。「おはよう、いただきます」などが日常として行われているかどうか。こういうことは学校に任せるとはならないと考えている。何でも学校任せにするのは違うと思う。家庭の課題が大きい。
	知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育活動の充実	1. 体力の向上 2. 健康にかかわる食育の実践	取組1：体力向上に向けて、各校で独自の取組を行った。 取組2：地元の農家の協力を得て、学校農園や農業体験等を行ったり、給食にも生かしてきた。	取組1：体力調査の結果の分析結果を踏まえた取組については、十分に取組むことができていない。 取組2：栄養士と連携しながら、食育を推進していくことが効果的である。	取組1：体力調査の分析を踏まえて、課題となる体力については、授業改善や学校全体の取組等を計画的に取り組むようにする。 取組2：地域の特色を生かして地元の農家と連携して農業体験を充実させる等して、新鮮な農作物生産の大切さに気づき、食育への関心を高めるようにする。	取組1：今後も、地域の特色を生かした農家や運動等の様々な団体と連携して、児童・生徒が多様な活動をする機会をつくる。 取組2：地域団体と連携して、児童・生徒が地域行事等に積極的に参加して、ボランティア活動を行うようにしていく。また、多様性についての理解促進を行う機会をつくる。 取組3：保護者や地域のニーズを踏まえて、児童・生徒が主体的に活動する活動をさらに充実させていく。	授業改善等を通して体力向上を推進する。	全校での体力向上の取組を計画的に実施する。	年間を通しての長縄跳びの取組、走ろう月間、縄跳び月間等の全校取組を感染対策をしながら計画的に実施する。 地域の農家さんと連携して食育指導を行う。	4	4	2学期末の取組状況については、90%の学級が計画的に実施できているため、3学期も継続していく。成果については、96.4%の児童が各自のめあてをもって取り組んでいることから、引き続き、取組を奨励していく。夏季水泳については、早朝1回のみ計画にして、もう1年様子を見て方向性を決める。
特色ある教育活動	1. 特色あるキャリアアクトレプレナシップ教育 2. オリリンピック・パラリンピック教育レガシーの継続等 3. 地域貢献する力の育成	取組1：学校農園や農業体験等、地域人財と連携した取組を行うことができた。 取組2：ポッチャ体験や高齢者施設、障がい者施設との交流等の体験学習を行った。また中学生については、ボランティア活動に積極的に参加した。 取組3：学園の児童・生徒が連携して、主体的に東三鷹祭を企画・準備・実施することができた。	取組1：地域にある様々な団体があるので、大いに連携して児童・生徒が体験できるように今後も継続する必要がある。 取組2：障がい者や高齢者等について理解する体験的な学習を継続する必要がある。 取組3：今後も、児童・生徒が主体的に活動する機会をつくるのが大切である。	取組1：今後も、地域の特色を生かした農家や運動等の様々な団体と連携して、児童・生徒が多様な活動をする機会をつくる。 取組2：地域団体と連携して、児童・生徒が地域行事等に積極的に参加して、ボランティア活動を行うようにしていく。また、多様性についての理解促進を行う機会をつくる。 取組3：保護者や地域のニーズを踏まえて、児童・生徒が主体的に活動する活動をさらに充実させていく。	地域の特性を生かした教育活動を推進する。	地域の方々や連携した教育活動を実施し、地域の一員である自覚を育てる。	農業体験、伝統文化の取組、交通運動会等、各学年で地域と協働した教育活動を実施する。	4	4	2学期末の取組状況については、90%の教員が学年ごとに農業体験、伝統文化等の教育活動を地域と協働して計画的に実施できている。今後は、学年以外の専科教員等が関われる機会を工夫していきたい。成果については、96.5%の児童が、地域の人と学ぶことが楽しく、自分に役立っていると感じており、3学期以降も引き続き、目的をもって取り組ませていく。	妥当である。今後も続けて欲しい。	

喫緊の課題	維持向上を指した	1. 教職員のライフ・ワークバランスの推進。2. 地域行事等への参加。	取組1：学校だよりと学年だよりの一本化や部活動の終了時刻を早める、DX化の推進等で、教員の平均超過勤務時間が減少してきた。取組2：ほとんどの教職員が、地域行事に参加することができた。	取組1：超過勤務の時間にばらつきがある。また、中学校においては、土日の部活動の大会には、指導員と共に顧問も引率している。逆に平日の予算が削られたので、負担感を感じている教員がいる。取組2：地域団体と連携を図り、児童・生徒に、地域行事開催の情報提供をすることも、ボランティア等としても参加できるようにする必要がある。	取組1：DX化のさらなる推進と、校務分掌の平均化に努める。また、部活動についての教員の負担感解消に向けて、地域人財との連携を図っていく。取組2：関係団体と連携して、児童・生徒がボランティア等に参加できる機会を増やしていく。	働き方改革	・教職員のライフ・ワークバランスを推進する。 ・年次休暇の取得率を高める。	・学校での滞在時間の縮減を図り、働き方改革を推進する。	・最上位目標の設定による仕事内容や方法の改善、行事や会議の精選及び簡略化、生成AIの活用、トラブルの当日解決等を実施する。 ・週1回の学年ノー残業デーや月1回の学校ノー残業デーを確実に実施する。	3	2	2学期末の取組状況については、教員の超過勤務時間が平均4.5時間以内が41%だった。引き続き在校時間の短縮に努めていく。成果については、ノー残業デーの実施率70%以上が26.6%と1学期に比べかなり低くなってしまった。これは、研究発表会や運動会、学芸会の影響がある。3学期のノー残業デー実施率は、徐々に上がっていくと思われる。	熱心な先生が多いということなのか、学校行事が先生の時間を圧迫しているということになるのだろうか。ICTが増えたことにより、人間が把握できる範囲を超えているのかもしれない。熱心が体を壊してしまったら元も子もないので、協力できるところはしていく。
-------	----------	-------------------------------------	---	---	---	-------	--	-----------------------------	--	---	---	---	---